

外来種のタイワンタケクマバチを大田市と出雲市で採集
島根県内では初記録

◆本件のポイント！

- ・外来種のタイワンタケクマバチを島根県内で初めて採集した
- ・本種は県内で既に定着している可能性が高く、定着による影響として国立環境研究所の侵入生物データベースでは、竹への穿孔による竹材の品質劣化や竹柵などの利用者への刺傷などがあげられているが、影響の程度はまだわからないことが多い

◆本件の概要

タイワンタケクマバチは、インドから台湾にかけて広く分布するクマバチの 1 種である。日本国内では 2006 年に愛知県・岐阜県で初めて記録され、その後、西南日本を中心に各地で生息が確認されるようになった。これまで島根県内では確認されてこなかったが、今年 7 月から 8 月にかけて、大田市と出雲市の海浜でハマゴウの花を訪れているところを発見し、4 個体を採集した。採集記録は、ホシザキグリーン財団研究報告第 25 号（2022 年 3 月発行）に掲載予定である。

本種は枯死した竹に穴を開けて営巣するハチであり、県内には営巣材が豊富であることと、より冷涼な長野県などでも定着しているとみられることから、県内でもすでに定着している可能性が高い。本種の定着による影響として、国立環境研究所の侵入生物データベースでは、本種に寄生しているダニの在来クマバチ（キムネクマバチ）への寄生や、竹への穿孔による竹材の品質劣化、竹柵などの利用者への刺傷をあげているが、影響の程度はまだわからないことが多い。

島根大学生物資源科学部環境共生科学科 昆虫生態学研究室では、40 年ほど前から山陰地域の海浜や中山間地を含む様々な環境でハナバチ相のモニタリングを続けている。気候変動や人間による土地利用の変化などを受け、世界規模でハナバチの種多様性や生物量が減少している中で、こうしたモニタリングの社会的重要性は増しており、継続していきたい。

◆本件に関する写真



大田市の海浜で採集されたタイワンタケクマバチのメス



タイワンタケクマバチが採集された大田市鳥井のハマゴウ群落

◆本件の連絡先 ※[at]は@に置き換えてください
(研究に関する問合せ)

島根大学 生物資源科学部 環境共生科学科 昆虫生態学研究室
教授 宮永龍一 (miyanaga[at]life.shimane-u.ac.jp)
助教 清水加耶 (ushimizu-kaya[at]life.shimane-u.ac.jp)

(報道に関する問合せ)

島根大学 企画部 企画広報課 広報グループ
TEL : 0852-32-6603
FAX : 0852-32-6630
MAIL : gad-koho[at]office.shimane-u.ac.jp

【添付資料： あり (枚) なし】